



番組HPは
こちらから!



KeePer技研が提供する 「RACING LABO SUPER GT + KYOJO」 大好評放送中!!

(テレビ東京、毎週土曜24時)

4月からスタートしたKeePer技研提供の番組「RACING LABO SUPER GT + KYOJO」が大好評放送中です。

5月11日(日)に、KeePer技研(株)が協賛する女性がイコールコンディションで競い合うKYOJO CUP第1戦のファイナルレースが富士スピードウェイで、IPS(インタプロトシリーズ)と併催されました。今回はまだまだ知られていないKYOJOについてご紹介します!



KYOJOって何?

女性同士がイコールコンディションで競い合う女性限定のカーレースです。サーキットはそんな「競争女子」のために用意された聖なるステージ。そこでは年齢やキャリア、家庭、育児といった女性をとりまく枠組みから解放されて、誰もが一人のドライビングアスリートとして積み上げてきたスキルとドライビングテクニックのもと、五感を研ぎ澄ませてコンマ1秒を競い合います。男性とも互角に戦えるメンタルを誇る彼女たちですから、レースも人生も思う存分エンジョイするのがKYOJOの流儀。

ーレース愛は誰にも負けないし、趣味なんかで終わらせたくない。

ーおしゃれだって楽しみたいし、女性としてのライフステージも満喫したい。

ー何よりプロとして真剣にモータースポーツの世界で生きていきたい。

そんな熱い想いを胸に秘め、麗しくしなやかに20名の女性選手が表彰台を目指します!!

創設者は、レース界のレジェンド関谷正徳氏

創設者はIPS(インタープロトシリーズ)の創設者でもある関谷正徳氏。日本人で初めてルマン24hに優勝したレジェンドです。他の人気スポーツ同様に女性の活躍が不可欠と2017年に日本初となる女性ドライバー限定のプロレース「KYOJO」を立ち上げ、新たなファンの獲得、競技の多様性の拡大、商業的な可能性の向上、さらには競技全体の活性化に取り組んでいます。



マシンは、FIA-F4+ハイブリッドユニットの新型車両を採用

昨シーズンまでスポーツカーのVITA-01を使用してきたKYOJO CUP。2025シーズンはフォーミュラカーレースへと一変するため、新たにFIA-F4相当のシャシー「KC-MG01」に、1.4リッターのターボエンジンにハイブリッドシステムを搭載したKYOJO CUP専用の新型車両が採用。

シャシーであるKC-MG01は、スーパーフォーミュラやアジアのレースシリーズで幅広く活躍するチームであるKCMGが開発したFIA-F4規格のフォーミュラカー(カーボンコンポジットモノコック)を採用しています。F1やスーパーフォーミュラでお馴染みになった最先端の安全装備であるHalo(FIA公認)も標準です。またFIA-F4規格だけに、サスペンションやブレーキなどもFIA-F4規格フォーミュラカー相応のスペックとなっています。エンジンは1.4リッターと小排気量ですが、ターボチャージャーにより過給して最大出力は176bhpになります。さらにハイブリッドシステム(MGU: 12kw)も搭載しています。ミッションは前進6速でパドルシフトでの操作となります。タイヤは、ブリヂストン製のF4専用の競技タイヤを全車が使用します。男性選手顔負けの迫力ある女性選手の激走は見ものです!



KYOJO CUP Rd.1 KYOJO REPORT 女性たちのエキサイティングなレース! これからもっともっと盛り上がる!!

KYOJO CUP第1戦のファイナルレースが富士スピードウェイで、IPS(インタプロトシリーズ)と併催された。

KYOJOレースの車両が、今までの少し玩具っぽいイメージを持つVitaから、本格的なフォーミュラカーになって面白いレースになるだろうと予想されたが、大変驚いた。サーキットに來ている人がびっくりするほど増えている。パドック前の駐車場もほぼびっしりで、今までのIPS・KYOJOの日の駐車場は空いていて、困ったことなどなかった。



駐車場は来場者の車でぎっしり! グリッドウォークにも人がぎっしり!

さらに驚いたのはグリッドウォークの時間で、以前はグリッドウォークがあったかどうか記憶にないぐらいなのに、びっしりと人がいて、まるでSUPER GTのようだ。さすがに、これだけグリッドウォークに集まるとグランドスタンドの観客席はガラガラになっているが、ポールに近いところでは、超盛り上がり。驚きを通り越して、むしろ不思議な光景だった。

このような情景になったのには、いくつかの要因が考えら

れる。まず、KYOJOで使われる車が本格的なフォーミュラカーになったこと。

これによって、「メンテナンス」を本格的なレーシングガレージが担当する必要性が出て、TOM'SとかセルモとかIMPULなど日本を代表するガレージが引き受けた。これは代表の関谷正徳氏の熱心な活動がものを言ったのだろう。日本を代表するガレージが乗り出したからには、当然それらについているスポンサーたちも放ってはおかない。



さらに、もうひとつ、今年の4月から始まった地上波のテレビ東「RACING LABO SUPER GT + KYOJO」で、KYOJOが取材され、放映後6局ものテレビ番組から取材を受けたのだそう。それで認知が一気に広がって、たくさんの人たちが集まったのだろう。

さらに、さらに、もうひとつ、たくさんの目が集まった時の女性たちのパワーは凄まじいものがある、彼女たち20名で戦われた12週のレースは、激しく攻撃的で、最後まで目を離

せないほど、エキサイティングな面白いレースだった。その一人ひとりが下手なアイドルよりずっと魅力的な女性たちとくればこれは絶対、推し活の熱烈ファンが爆発的に増えたのに違いない。いくつかの要素が重なり、相乗効果で化学反応を起こしたかのようだ。

優勝は、#86の下野璃央(Dr.Dry with Team IMPUL KC-MG01)選手。早くも今季2勝目を飾り、開幕戦を完勝で終えた。今後のKYOJO、そして「RACING LABO SUPER GT + KYOJO」はもっともっと盛り上がるに違いない。



優勝した下野璃央選手(中央)、準優勝の翁長実希選手(左)、3位の佐藤こころ選手(右)。

2025 KYOJO CUP
スケジュール
IN 富士スピードウェイ

Rd.2 7月19日(土)・20日(日)
Rd.3 8月16日(土)・17日(日)
Rd.4 10月11日(土)・12日(日)
Rd.5 11月8日(土)・9日(日)